

アニミズムとホーディング（溜め込み）の関連性

—溜め込むモノの種類に着目して—

久家 健太郎（東京大学 文学部, pr.kkuga@gmail.com）

白岩 祐子（埼玉県立大学 保健医療福祉学部, shiraiwa@gmail.com）

The relationship between animism and hoarding: Focusing on the types of stuffs people hoard

Kentaro Kuga (Faculty of Letters, University of Tokyo, Japan)

Yuko Shiraiwa (School of Health and Social Services, Saitama Prefectural University, Japan)

Abstract

The purpose of this study was to elucidate the relationship between hoarding and animism, focusing on the types of stored objects. Previous studies have determined that one of the reasons why people hoard their belongings is their belief in animism, but the differences depending on the types of items being stored remain unknown. In this study, we asked 85 people to answer the Animism Scale for Adults to determine the relationship the extent of their belief in animism and how much they hoard about 17 types of items. The results revealed that objects given by others (e.g., letters), objects that reflect the existence and memories of oneself and others (e.g., photos), and objects in the shape of people or animals (e.g., dolls) are positively correlated with animism. We discuss the need to understand hoarding, which is regarded as a negative act, from the perspective of interpersonal relationships.

Key words

hoarding, animism, anthropomorphication, apotheosis, interpersonal relationship

1. 序論

本研究は、個人特性としてのアニミズムと、モノを溜め込む行為（ホーディング）との関連を検討する。はじめにホーディングとアニミズムを概説し、その上で本研究の目的を明らかにする。

1.1 精神疾患としてのホーディング

一般的に価値のないとされるモノを溜め込む行為をホーディング (Hoarding) といい (Frost & Gross, 1993)、近年注目を集めている (Mataix-Cols, Frost, Pertusa, 2010)。この行為が悪化し、自宅がいわゆるごみ屋敷になるなど、日常生活を送る上で支障をきたすようになると、ホーディング障害 (Hoarding Disorder) という精神疾患の一形態として扱われる (American Psychiatric Association, 2013)。

その判断基準については様々な意見があり、必ずしも統一されている訳ではないが、Frost & Hartl (1996) の基準がひろく参照されている。それは、①価値がない、もしくは低いと考えられるモノを大量に保有しており、かつ捨てることができない、②部屋を生活空間として活用できないほど散らかしている、③著しい苦痛もしくは機能不全が生じる、の3条件である。

1.2 日常的なホーディング

こうした精神疾患としてのホーディングが注目される一方で、より普遍的、日常的なレベルのホーディングについても検討が進みつつある。

池内 (2014) は、一般的な人々のホーディング傾向に

着目し、それを、何らかの主観的な意味を付与しているためにモノを溜め込み、処分できない性向と定義している。また、Cherrier & Ponnor (2010) は、役に立たない、あるいは価値の低いと思われるモノを大量に、ただし生活様式にはほとんど影響しない範囲で溜め込む人々に非構造化面接を行い、溜め込まれるモノは、他者との絆の象徴や過去の経験想起の手がかりとなっているほか、不確かな未来への安心感を与えるなどの役割があることを明らかにした。このように近年、人々が日常的に示す一般的な行為としてのホーディングも注目されている。

1.3 ホーディングの規定因としてのアニミズム

日常的なホーディングはなぜ生じるのだろうか。池内 (2014) はアニミズムという観点からの説明を試みている。アニミズムの定義については諸説あるが、池内 (2010) は「実際に生を認めているわけではないが、無生物に対して神性や生命の存在を感じる現象」と規定している。その上で、池内 (2010) は人々のアニミズム傾向を測定する尺度を作成した。この尺度は、「自然物の神格化」、「所有者の分身化」、「所有物の擬人化」という3因子から構成され、それぞれ自然物を神とみなしたり、神が宿っているとみなしたりすること、モノを現在の所有者や過去の所有者（製作者など）の分身とみなすこと、モノに対して人間と同じような感情を抱くこと、を意味している。池内 (2014) はこの尺度を用いて、日常レベルのホーディングを行う人々を対象に、ホーディングとアニミズムの関連を検討し、モノを捨てる際の抵抗感などがアニミズムに起因することを明らかにした。

1.4 研究の目的

本研究は、近年の研究を踏まえ、ホーディングを日常

的なモノの溜め込みを含む包括的な現象として扱い、この現象をアニミズムの観点から理解する池内（2014）の枠組みを踏襲しつつ、ホーディングとアニミズムの関連をさらに詳しく検討する。具体的には、ホーディングを一律に扱うのではなく、溜め込まれるモノを分類した上で、各種類のホーディング状況とアニミズムの関連を検討する。

池内（2014）はすでに、ホーディングの対象になりやすいモノを、「手紙・はがき・写真等」や「ぬいぐるみ・飾り物等」など計11種類に分類している。本研究では、この分類を参考にしつつ、さらに細分化したり網羅性を高めたりすることで、各ホーディングの状況とアニミズム、とくに「所有者の分身化」や「所有物の擬人化」との関連を明らかにする。

2. 方法

2.1 パイロット・スタディ

人々が溜め込みやすいモノの種類を把握するためパイロット・スタディを行った。2020年10月、5人を対象に「価値は薄いがつい溜め込んでしまっているモノ」の有無について尋ねたところ、「色紙・寄せ書き等」、「チケットの半券等」、「スポーツ用品等」、「筆記用具等」の4種類が新たに抽出された。これを、池内（2014）の分類をさらに細分化するなどした13種に加え、計17種をホーディング対象として設定した（表1）。

表1：種類別のホーディング状況

項目	M	SD
5. 写真等（例：幼少期のアルバム）	3.44	1.34
14. 色紙・寄せ書き等（例：卒業の際にもらった寄せ書き）*	3.40	1.49
3. 本・雑誌・資料等（例：受験生時代の参考書）	3.23	1.40
4. 手紙・はがき等（例：年賀状）	3.18	1.51
1. 衣類・服飾品等（例：着古したワンピース）	2.72	1.37
17. チケットの半券等（例：参加したライブのチケット）*	2.72	1.60
2. 紙袋・空き箱等（例：高級店の紙袋）	2.54	1.44
7. CD・DVD等（例：好きな歌手のアルバム）	2.47	1.52
10. 幼い頃の作品等（例：小学生時代の絵画）	2.35	1.40
8. ぬいぐるみ・人形等（例：ゲームセンターの景品）	2.32	1.34
15. スポーツ用品等（例：野球のグローブ）*	2.07	1.41
13. 家電・電子機器等（例：音楽プレーヤー）	1.95	1.14
6. 収集品等（例：切手）	1.89	1.16
11. 明細書・レシート類（例：コンビニのレシート）	1.81	1.22
9. 飾り物等（例：アンティーク）	1.79	1.11
12. タオル・ハンカチ等（例：使い古したハンカチ）	1.68	1.03
16. 筆記用具等（例：使い終わったボールペン）*	1.63	1.08

注：* 今回の分析で独自に追加したモノ。測定は5件法による。

2.2 本調査の手続きと参加者

同年11月、Qualtricsによるオンライン調査を実施した。参加者は、第一筆者の知人をはじめとする85名であり、そのうち欠損回答が多かった23名を除く62名を分析対象とした。性別は男性36名、女性18名、その他8名であり、平均年齢は23.67歳（SD=5.77）であった。

2.3 設問項目

本調査では以下の3つの内容を尋ねた。

2.3.1 アニミズム傾向

池内（2010）の成人用アニミズム尺度11項目に、独自の質問項目2つを加え、合計13項目を測定した。前掲の通り、既存の尺度は「自然物の神格化」、「所有者の分身化」、「所有物の擬人化」の3因子から構成され、それぞれ「自然界に存在する巨岩や大木には、神が宿っていると思う」、「手作りのモノには作り手の心が宿っているような気がする」、「身の回りのモノに名前をつけることがある」などの項目を含んでいる。

このうち「所有者の分身化」因子で、新たに「長年使ってきた道具には、所有者の心が宿っているような気がする」と「昔から大切にしている品には、所有者の心が宿っているような気がする」を追加した。「所有者の分身化」は先述の通り「モノを現在の所有者や過去の所有者（製作者など）の分身とみなすこと」をさすが、「所有者の分身化」因子には現在の所有者に関する項目が含まれていない。本研究は現在の所有者を対象とすることに照らし、上記2項目を追加した。すべて5件法（1＝「全くあてはまらない」、3＝「どちらともいえない」、5＝「非常にあてはまる」）で回答を求めた。

2.3.2 ホーディング状況

17種のモノごとにホーディングの程度を尋ねた。そのうち、既存（池内，2014）の分類のひとつである「子どもの作品類」については、参加者の年齢層を考慮して「幼い頃の作品等」とした。いずれも5件法（1＝「全くため込んでいない」、3＝「どちらとも言えない」、5＝「非常によくため込んでいる」）で回答を求めた。

2.3.3 個人属性

最後に性別、年齢などへの回答を求めた。

3. 結果

分析にはフリー統計ソフトHADを使用した（清水，2016）。

3.1 記述統計

はじめにアニミズム尺度（池内，2010）と追加した2項目を因子分析した（最尤法、プロマックス回転）。固有値の減衰状況と解釈可能性にもとづき、先行研究と同じ3因子構造を抽出した。池内（2010）に依拠し、各因子は「所有者の分身化」、「所有物の擬人化」、「自然物の神格化」と呼称する。追加した2項目はいずれも想定通り「所有

者の分身化」に高い負荷量を示した。

α 係数はそれぞれ .89、.79、.88 と高い値が得られたため、因子ごとに評定平均値を算出し、これを分析に使用した。各平均値は、「所有者の分身化」 $M = 3.26$ ($SD = .98$)、「所有物の擬人化」 $M = 2.73$ ($SD = .90$)、「自然物の神格化」 $M = 2.25$ ($SD = 1.31$) であった。「所有者の分身化」と「所有物の擬人化」の相関係数は $r = .54, p < .01$ 、「所有者の分身化」と「自然物の神格化」は $r = .42, p < .01$ 、「所有物の擬人化」と「自然物の神格化」は $r = .30, p < .05$ となっていた。

次に、種類別のホーディングの平均値を算出した(表 1)。「写真等」、「本・雑誌・資料等」、「手紙・はがき等」、そして今回追加した「色紙・寄せ書き等」が理論的中点 (3) を超える結果となった。

3.2 アニミズムとホーディングの関連

アニミズム 3 因子の各評定平均値と 17 種類のホーディング状況の相関係数を算出した(表 2)。

「所有者の分身化」と有意(傾向)な正の相関を示したのは、「手紙・はがき等」($r = .33, p < .05$)、「色紙・寄せ書き等」($r = .30, p < .05$)、「スポーツ用品等」($r = .28, p < .05$)、「紙袋・空き箱等」($r = .27, p < .05$)、「写真等」($r = .24, p < .10$)、「CD・DVD 等」($r = .23, p < .10$) であり、有意な負の相関を示したのは「家電・電子機器類」($r = -.33, p < .05$) であった。

「所有物の擬人化」と有意(傾向)な正の相関を示したのは、「紙袋・空き箱等」($r = .45, p < .01$)、「チケットの半券等」($r = .42, p < .01$)、「筆記用具等」($r = .31, p < .05$)、「手紙・はがき等」($r = .24, p < .10$)、「ぬいぐるみ・人形等」($r = .24, p < .10$)、「CD・DVD 等」($r = .23, p < .10$) であった。

「自然物の神格化」と有意(傾向)な正の相関を示したのは、「チケットの半券等」($r = .37, p < .01$)、「手紙・はがき等」($r = .36, p < .01$)、「色紙・寄せ書き等」($r = .33, p < .05$)、「CD・DVD 等」($r = .31, p < .05$)、「幼い頃の作品等」($r = .23, p < .10$) であった。

.05)、「CD・DVD 等」($r = .31, p < .05$)、「幼い頃の作品等」($r = .23, p < .10$) であった。

4. 考察

本研究は、個人特性としてのアニミズムと、種類別のホーディング状況との関連を検討した。

4.1 所有者の分身化とホーディング

アニミズムのうち「所有者の分身化」傾向をもつ人、すなわちモノを現在や過去の所有者の一部とみなす人ほど、手紙や色紙、紙袋のように他者から贈られたモノ、写真や CD・DVD など他者や自己が投影されたモノ、スポーツ用品などかつて使っていたモノを溜め込む傾向にあった。逆に、そうした自他の存在や関係性とは無縁な家電製品、電子機器などは溜め込まない傾向にあった。

4.2 所有物の擬人化とホーディング

「所有物の擬人化」、つまりモノを人間のように見なす傾向のある人には、ぬいぐるみや人形のように人や動物の姿をしたモノを溜め込む傾向がみられた。また、ライブのチケットの半券や、かつて使っていた筆記用具などを捨てずにもっている傾向も確認された。これらのモノは、ミュージシャンなど自分の敬愛する対象そのものであったり、自分の相棒のような意味づけを与えられたりしているがゆえに処分されにくいことが推測される。このように、所有物の擬人化には所有者の分身化とは異なるホーディングのパターンがみられた。その一方で、手紙や紙袋・空き箱など、両因子には共通するホーディング対象もみられた。手紙類や、おそらく贈り物の一部と考えられる高価な紙袋類には、贈り主の分身としての意味と、贈り主その人という意味の両方が込められやすいと考えられる。

表 2: アニミズム尺度と溜め込むモノの相関

	5. 写真等	14. 色紙・寄せ書き等	3. 本・雑誌・資料等	4. 手紙・はがき等	
所有者の分身化	.24 †	.30 *	-.08	.33 *	
所有物の擬人化	.20	.17	.11	.24 †	
自然物の神格化	.05	.33 *	.04	.36 **	
	1. 衣類・服飾品等	17. チケットの半券等	2. 紙袋・空き箱等	7. CD・DVD 等	
所有者の分身化	.01	.21	.27 *	.23 †	
所有物の擬人化	.00	.42 **	.45 **	.23 †	
自然物の神格化	-.03	.37 **	.16	.31 *	
	10. 幼い頃の作品等	8. ぬいぐるみ・人形等	15. スポーツ用品等	13. 家電・電子機器等	
所有者の分身化	.13	.08	.28 *	-.33 *	
所有物の擬人化	-.03	.24 †	.22	-.02	
自然物の神格化	.23 †	.04	.15	-.02	
	6. 収集品等	11. 明細書・レシート類	9. 飾り物等	12. タオル・ハンカチ等	16. 筆記用具等
所有者の分身化	.10	-.12	-.12	-.06	.13
所有物の擬人化	.15	.13	.19	.11	.31 *
自然物の神格化	.18	.06	.06	.05	.07

注: ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$ 。

4.3 自然物の神格化とホーディング

本研究はホーディング対象のモノを人工物に限定し、植物や石などの自然物は設問に含めていない。それにも関わらず、アニミズムのうち「自然物の神格化」、すなわち自然物に神の存在を見いだす傾向が、ある種のホーディングと関連していることが見いだされた。具体的には、手紙や寄せ書き、チケットの半券、CDやDVDなど、他のアニミズム因子と正の相関を示したモノのホーディングが、自然物の神格化とも正の相関を示した。この結果は疑似相関によるものと解釈するのが妥当であろうが、このことは同時に、人々のもつアニミズムが想定ほどは分化されておらず、「自然物の神格化」と「所有者の分身化」、「所有物の擬人化」が混沌とした形で人々のなかにある可能性をも示唆するものである。

なお、本研究が設定した17種類のモノ中、「本・雑誌・資料等」、「衣類・服飾品等」、「収集品等」、「明細書・レシート類」、「飾り物等」、「タオル・ハンカチ等」はいずれのアニミズム因子とも相関を示さなかった。これらのモノは一見して、いわば惰性として手元に置かれていたり、いつか使ったり売ったりするかもしれないという理由で処分されずにいたり、積極的に収集されたモノであるとの特色もっている。これらのことを踏まえると、溜め込まれたモノすべてが必ずしもアニミズムの対象となるわけではないようである。本研究から導かれた、人々が生命の存在を見だしやすく、手元に残しておきやすい対象としては、他者から贈られたモノ、自他の存在や記憶が反映されたモノ、人や動物の形をしたモノ、を挙げるができるだろう。先行研究 (Cherrier & Ponnor, 2010) は、溜め込まれるモノに他者との絆の象徴や過去経験のリマインダー機能、そして未来への安心感を与える役割があることを明らかにしたが、それは必ずしもあらゆる種類のモノに当てはまるわけではないことを本結果は示唆している。

4.4 本研究の意義と課題

いわゆるごみ屋敷が社会問題としてひろく取り上げられたこともあり、ホーディングは従来、精神疾患の一種とみなされ治療の対象となってきた。そこまで行かない場合でも、ホーディングはどちらかといえば悪しき習慣、是正すべきネガティブな行為とみなされ検討の対象となってきた。これに対して、アニミズムという心性からホーディングを捉え、両者の関係をモノ別に検討した本研究は、身の回りにあるモノを大切にしている行為としての側面に光をあてるものである。つまり本研究は、ホーディングという行為を対人関係や思い出といったポジティブな視点から相対化した Cherrier & Ponnor (2010) の適用可能範囲を特定し、さらに定量的に示したものと位置づけることができるだろう。

生命なきモノに生命の息吹を感じとり、あるいは作り手や贈り主の存在を投影したり、自他そのもの、ないしその一部とみなしたりするアニミズムは、東アジアにおける主な信仰形態のひとつであり (加地, 2017)、日本人の伝統的生命観の一種 (波平, 1996) と考えられてきた。

さらに、亡くなった人の形見を保持し、形代として大切にしている習慣もまたアニミズムの一種だとするならば (池内, 2006)、アニミズムは死後も続く対人関係の一形態ということになるだろう。このように考えたとき、生活上必ずしも不可欠とはいえない特定の種類のモノを捨てずにとっておく行為には、日本、あるいは東アジアに固有の意味を見いだすことができるかもしれない。その意味で、今後はアニミズムとホーディングの関係における文化差を検討することが必要だろう。

その他の本研究の課題として、回答者の性別に偏りがあったことが挙げられる。アニミズムには性差があり、女性のほうが信じる強度は強い (池内, 2010)。本研究の回答者に占める男性の割合は高く、そのことが結果に何かしらの影響を与えている可能性がある。今後は性別に偏りのない、さらに幅広い年齢と社会経済的立場の人々を対象として、より普遍的なアニミズムとホーディングの関係を検討することが必要である。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 (No. JP20K14126) の助成を受け実施した。

引用文献

- American Psychiatric Association (2013). *Diagnostic and statistical manual of mental disorders: DSM-5*. American Psychiatric Publishing.
- Cherrier, H. & Ponnor, T. (2010). A study of hoarding behavior and attachment to material possessions. *Qualitative Market Research: An International Journal*, 13 (1), 8-23.
- Frost, R. O. & Gross, R. C. (1993). The hoarding of possessions. *Behaviour Research and Therapy*, 31 (4), 367-381.
- Frost, R. O. & Hartl, T. L. (1996). A cognitive-behavioral model of compulsive hoarding. *Behaviour Research and Therapy*, 34 (4), 341-350.
- 池内裕美 (2006). 遺品や形見の持つ意味—対象喪失の心理セミナー年報—. 139-152.
- 池内裕美 (2010). 成人のアニミズム的思考—自発的喪失としてのモノ供養の心理—. *社会心理学研究*, 25 (3), 167-177.
- 池内裕美 (2014). 人はなぜモノを溜め込むのか—ホーディング傾向尺度の作成とアニミズムとの関連性の検討—. *社会心理学研究*, 30 (2), 86-98.
- 加地伸行 (2017). 儒教とは何か. 中央公論新社.
- Mataix-Cols, D., Frost, R., O., & Pertusa, A., (2010). Hoarding disorder: A new diagnosis for DSM-V? *Depress Anxiety*, 27 (6), 556-572.
- 波平恵美子 (1996). いのちの文化人類学. 新潮社.
- 清水裕士 (2016). フリーの統計分析ソフト HAD—機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案—. *メディア・情報・コミュニケーション研究*, 1, 59-73.

(受稿: 2021年2月26日 受理: 2021年3月10日)